

英語科学習指導案

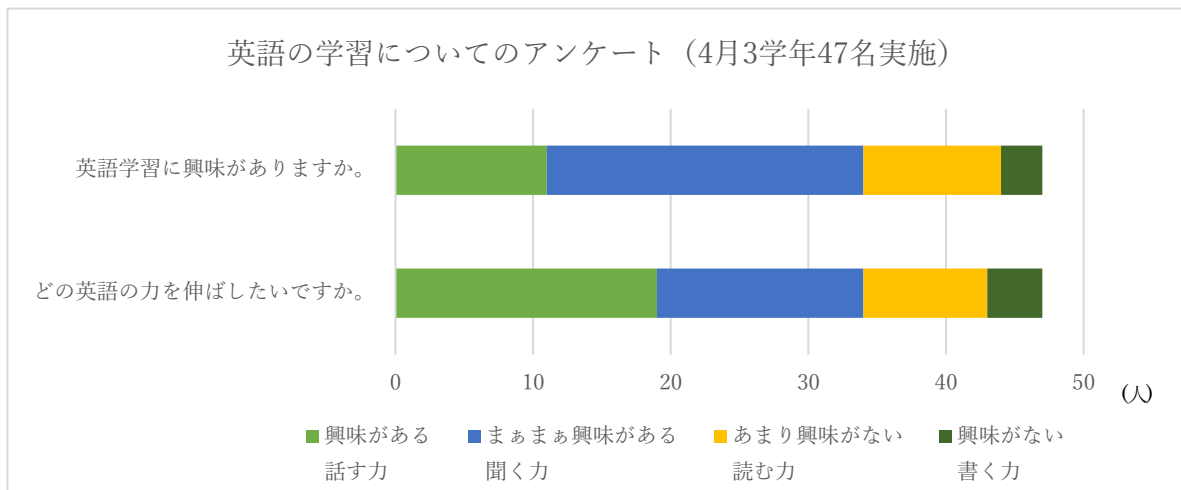
1 単元名 Program5 The History of Chocolate

2 単元について

本単元は、チョコレートの起源、生産や消費を取り上げている。今では身近な食べ物となった発達過程を知るとともに、その背景に、原料のカカオ栽培において、低賃金での過酷な労働を強いられた人々の存在について理解を深める。この単元では、修学旅行での体験を通して、ALTに自分が紹介したいおすすめの方法やもの（こと）をスピーチで伝える。その際、事実を伝えるだけでなく、歴史的な事実と関連させたり、修学旅行を通して学んだことや分かったことを根拠に述べたりしてスピーチできるようにしたい。

学習指導要領「話すこと [やり取り]」の学習活動を通して、即興的な英語でのやり取りをする力を高めるとともに、社会的事実や自分の体験を基に、自分の気持ちや考えを述べる「話すこと [発表]」の力を育てたい。

3 生徒の実態



上記のアンケート結果より、本学年の多くの生徒が英語学習に興味をもっていることが分かる。また、英語の4技能のうち、話す力を最も高めたいと考えている生徒が多い。授業では、帯学習として、1、2年次にはSmall Talkを行ってきた。3年次からは、ペアで「インタビューマッピング」を行い、マッピングを基にスピーチをしたり、英文を書いたりしている。定期的に、教師が生徒の活動の様子を取り上げ、自分の思いを英語で伝えるにはどのような工夫ができるか、ペア活動の振り返りの時間をどう次につなげるかを全体に指導してきた。それにより、友達のスーピーチの表現を自分のスピーチに生かしたり、既習表現を用いてペアの相手に自分の思いを英語で伝えたりできるようになってきた。

本時では、修学旅行での体験を通して、ALTに自分が紹介したいおすすめの方法やもの（こと）をスピーチで伝える。生徒は、出発前にALTから興味のあることやリクエストを聞き、その条件にふさわしい場所やもの（こと）をALTに発表する。ペアでスピーチの練習を重ね、自信をもって発表できるよう指導したい。また、中間評価を通して、生徒自身でスピーチを再構築する機会を与え、自分の感じたことや考え、歴史的な事実等の根拠が入った、より充実した内容のスピーチにしたい。

4 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

日本の歴史に興味のある ALT に日本の有名な場所や建物、食べ物について説明したり、修学旅行での自分の体験を基に詳しく紹介したりできる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞主格 who, which, that の使い方や働きを理解している。 関係代名詞主格 who, which, that を用いて、ALT のおすすめの場所やものについて紹介する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史に興味をもつ ALT に京都を訪れたいと思ってもらえるように、おすすめのものについてまとまりのある内容を紹介している。 ALT に紹介したい場所やものについて、マッピングを基に話している。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行での体験を通して、ALT に紹介したい場所やものについて、マッピングを基に話そうとしている。 友達のスピーチを聞いて、スピーチの内容や構想など自分のスピーチに生かそうとしている。

(3) 指導と評価の計画

次 (時)	主な学習活動 (全11時間)	評価規準		
		○記録に残す評価 ●指導に生かす評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
一 次	・関係代名詞 who, which, that の文法導入を行う。(3)	●	●	
	・関係代名詞を用いたクイズをつくり、互いに発表し合う。(1)	○	○	○
二 次	・ Interact の内容を理解し、日本のものを紹介するスピーチを行う。(3) 本時2/3	●	●	
		○	○	○
三 次	・ Program 5 の本文 think1~3 の内容を理解する。(3)	●	●	
		●	●	
	・ think1~3 から1つ選び、その内容について、イラストや写真を用いて Retell を行う。(1)	○	○	○

5 研究主題との関連

コミュニケーション能力を養うにはどのように指導したらよいか -聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して-

(1) 言語活動の工夫

○コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定

- ・修学旅行に行く前に、京都を訪れたいと考えている ALT の興味のあることについての情報を知り、生徒が旅行中にそのリクエストに沿ったものを探してくる。(場所、もの(こと)等)
- ・修学旅行での体験を通して、自分が感じたことや考えたこと、印象に残ったことを根拠に、ALT が実際に旅行に行きたくなるような有名な場所や食べ物等を紹介するスピーチを行う。

○帯学習

- ・自分が話したい話題について、ペアでインタビューして、マッピングに考えをまとめていく「インタビューマッピング」を行っている。マッピングで生徒の思考を広げたあと、それを基にスピーチを作成する。

(2) 指導方法の工夫

○学習形態の工夫

- ・個人で作ったスピーチをペアで複数回練習し、アドバイスし合う。また、教師が生徒のスピーチの内容面で参考になる生徒を取り上げて中間評価を行い、それを基にもう一度、生徒自身でスピーチを見直し、改善を図る。

○生徒の学習意欲を喚起するような活動の工夫

- ・生徒が実際に撮影した写真をタブレットで見せたり、具体物を提示したりしながらスピーチをする。

6 本時の学習

(1) 目標

- ・ALT に紹介したい場所、ものについて、修学旅行を通して自分の体験や感じたことを取り入れたまとまりのあるスピーチをつくる。 (4)話すこと [発表] イ 【思考・判断・表現】

(2) 展開

学習活動 学習形態 (配時：分)	・指導上の留意点 ◆評価
<p>1 挨拶、課題を提示する。 全体 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習に明るく取り組める雰囲気をつくり、本時の授業のねらいとゴールを伝え、流れを確認する。(JTE、ALT) ・修学旅行を通して感じたこと、体験したこと等を基にALT から事前に聞いたリクエストに沿ったスピーチを行うことを伝える。
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">修学旅行で見つけたALT におすすめしたい場所やものを紹介するスピーチをよりよいものにしよう。</p>	
<p>2 インタビューマッピングを行う。 ペア (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で見つけたALT に紹介したい場所、ものについて、インタビューマッピングを行う。 ・マッピングを見て、ペアで振り返る。 <p>3 マッピングを基に、スピーチ練習を行う。 個人 (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングをグルーピングし、ナンバリングした後、口頭練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや座席の移動を指示する。(JTE) ・質問がスムーズに行えていないペアに英語で質問し、マッピングが広げられるよう個別に支援する。(JTE、ALT) ・インタビューマッピングで、ペアで分からなかった表現、もっと付け加えられそうな内容がなかったかを振り返らせ、マッピングに赤で書き加えるよう指示する。(JTE) ・実際に撮影してきた写真を使ってもよいことを伝える。(JTE) ・うまくスピーチを練習できない生徒については、教科書の既習表現を参考にするなど個別に支援する。(JTE、ALT)
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>〈予想される生徒のスピーチ例〉</p> <p>I visited Kiyomizu temple for the first time. It has a stage called Kiyomizu no butai. It was great. The view from the temple was so nice. We can draw a fortune there. I was glad that I got a daikichi. There are a lot of shops around there. This is yatsushashi. Yatsushashi is a kind of Japanese sweets. Please try it.</p> </div>	

<p>4 スピーチをペアで伝え合う。 ペア (9)</p> <p>①考えたスピーチをペアで互いに発表した後、評価カードに記入する。</p> <p>②振り返りを行う。 ※①②を2回行う。</p> <p>5 他の生徒のスピーチを聞く。 全体 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が指名した生徒の発表を聞いて、自分のスピーチと比べ、よい点に気付く。 <p>6 スピーチを見直し、よりよいものにするよう改善を加える。 個人 (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のマッピングに、改善する点を青で書き加える。 スピーチの口頭練習を行う。 <p>7 スピーチをペアで伝え合う。 ペア (8)</p> <p>①考えたスピーチをペアで互いに発表した後、評価カードに、互いに記入する。</p> <p>②振り返りを行う。 ※①②を2回行う。</p> <p>※2回目の練習は、最初にスピーチを伝えた相手ともう一度伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のペアの相手が、評価カードに、最初のスピーチとの変容を朱書きで記入する。 <p>8 振り返りと次時の確認を行う。 全体 (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分からなかった表現を質問したり、付け加えられそうなことをアドバイスしたりするよう指示する。(JTE) ①自分の体験や感じたこと、考えたことを基にALTにしてほしいことを盛り込んでいる。 ②既習表現で和名等を上手く伝えている。 ③内容のつながりを意識してまとまりのあるスピーチをしている。 上の①～③について、スピーチを工夫している生徒を1～2名、意図的指名し、全体にモデルとして示す。(JTE) 指名した生徒のスピーチから、上記の①～③についてよかった点に気付かせる。(JTE) 内容につながりをもたせる方法、自分の感じたことを伝える既習表現などに視点を絞ってスピーチの改善を図るよう伝える。(JTE) 分からなかった表現を質問したり、付け加えられそうなことをアドバイスしたりするよう指示する。(JTE) 最初のペアの相手ともう一度スピーチを伝え合うときは、初めに聞いたスピーチと何が違っていたか、よりよくなっていたかどうかに着目してスピーチを聞くよう指示する。(JTE) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆中間評価を経て改善したスピーチは、最初のスピーチより、自分の感じたことや体験を基にした事実が盛り込まれ、内容が充実し、まとまりのあるスピーチをしている。</p> <p>(評価カード、観察)【思考・判断・表現】</p> </div>
---	---

(3) 視点

- ペア練習を複数回取り入れて振り返りを行ったことやポイントを意識して中間評価を行ったことは、スピーチで事実や自分の感じたことを伝えたり、よりまとまりのあるスピーチにしたりするために有効であったか。